

# まちなかにぎわい活動拠点整備事業（案）に対する パブリックコメントの結果について

- 1 意見募集期間 令和6年5月10日（金）から令和6年6月9日（日）まで
- 2 意見提出件数 10件
- 3 内 容 等 次のとおり

※1 提出された御意見は原文のまま掲載しています。ただし、容易に個人が特定されると思われる部分は削除しています。

※2 まちなかにぎわい活動拠点整備事業に関する御意見に対する町の考えを掲載しています。

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
①	<p>当事業案については、急場しのぎの苦肉の策として立案された感がします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・強行するのでしょうか、公社の株主の一人としてプロセスも含めて違和感だらけです。</li> <li>・社会実験としては、予算規模過大、頓挫した場合、町の（役場）信頼、地に落ちますので、留意をしてください。</li> </ul> <p>縮小社会、小規模自治体のサバイバル時代に突入して、久しいが、地域経済をコントロールする自治体の資源（人・物・資金）配分の間違ひは、即、消滅加速に繋がり、許されない状況になっている。</p> <p>にもかかわらず、本町だけに限ったことでは無いが、年金問題、65才定年延長等で、地方公務員に、課題が発生してから、成り行き任せの、自分ディフェンス型人間が増えていて、地域づくりの進路が蛇行だけならいざしらず、誤った過去に逆走したりしている。</p> <p>自然の家が、赤字不採算施設の権化のように表現されているが、そもそも、町民と町を訪れる人達との交流、環境、健康、教育的配慮を複合した公益性の高い複合施設として、設置されたもので、税金の投入を前提とした一般会計で運営されている。</p> <p>今更、何おかわんやで、老朽化は、10年前から、想定されてたこと。改修財源を、積み立てて来るべきであったのを、他の定住箱物の改修に、身の丈に合わない見栄を張り、突っ込み過ぎただけの話だと思う。</p> <p>起債償還、都市型ジム機器メンテ等、町サイズに合わない背伸びした新町民体育館は、その一例で、体裁は良いが、利用者は、限定的。莫大な税の投入で維持されていて、人口2,000人強で、持ちこたえられそうもない。</p> <p>それに対して、自然の家は、外貨を獲得している施設であり、3,000万弱の補填は、温泉に比較して、軽微な補填で済んでいる。環境学習センターという社会教育的施設が開業15年目で、公社の強い要望で、付帯増築された。そのため、その維持管理費分は、町の持ち出しを増やした固定要因になっている。増築が無ければ、維持費は、2,000万円弱程度であろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メニューについては、当該施設を指定管理予定の(株)ブナの里振興公社（以下、「公社」という）によるアンケート調査を令和6年7月末に実施します。いただいた御意見もメニューなどに反映していく予定です。</li> <li>・歌才自然の家は、3つの大きな問題を抱えています。一点目は、施設の老朽化で、現状のまま今後20年間使用すると仮定して改修した場合、およそ3億5千万円程度の事業費が必要になります。また、建替による新築を行う場合、現施設の解体費を含めると、およそ9億8千万円程度の事業費が必要になります。</li> <li>二点目は、慢性的な赤字経営です。歌才自然の家単体での収支は、これまでも収支不足が続いていましたが、物価高騰などの影響により令和5年度決算では、2千3百万円の収支不足となりました。</li> <li>三点目は、人手不足です。歌才自然の家のほかに、黒松内温泉や道の駅を運営している公社では、人手不足の影響で、営業時間の短縮など、各施設の運営に支障が出ている状況です。</li> </ul>

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>富裕層相手のインバウンドは、本町では期待できない。</p> <p>インバウンド需要は、ニセコのような無国籍文化・超リッチ路線か、本州の日本昔話みたいな里山文化にある。欧米のような風景の本町は、あくまで道民のためのリーズナブルな、家族単位の交流の場で良いし、町内既存旅館を圧迫していないのだから、ビジネス客の利用は、問題にすることでは無い。</p> <p>会議、研修利用が無いのは、コロナ禍による自粛影響もあるし、役場が、以前のように、組織あげて、会議などの誘致活動に熱心に取り組む余裕が無くなったからである。</p> <p>隣室の音が聞こえるなら、泡の樹脂防音材を注入できるし、3億円程度の修繕で10年程度もたせても、良いのではないかと思う。</p> <p>私には、なぜ、市街地のにぎわいづくりが、サバイバル時代に勝ち抜く処方箋になるのか、理解できない。</p> <p>市街地にぎわいづくりのプレイヤーを、公社に担わせるというのも、定款に無い業務。公社は、誕生の発端が、交流施設のプレイヤーとして誕生させたわけで、公社職員が確保、育成できないのは、社長以下、経営陣、フロントの怠慢と株主の一人として思う。</p> <p>公社職員の中には、稼げないの一点で、自然の家廃止を、願う声もあるが、本末転倒、一定の税金投入は、当然で、誕生の歴史を学べと言いたい。</p> <p>3,000人の宿泊者の食事は、安定的に見込めるのだから、レストランとしての、最低限の経営保障につながる。</p> <p>仮に、市街地が、2億円で、再生し、レストランの稼ぎで、地域がサバイバルから勝ち残れるなら、ある意味、安い。</p> <p>しかし、物価高、外食、飲食自粛傾向は、改善しないと思う。その中で、リーズナブル路線なのか、プチ贅沢路線なのか、話題になるようなメニューが提供されるのだろうか。ケータリングは高齢者ニーズはあると思うが、福祉サイドとの棲み分けもある。</p> <p>コンビニの弁当より、美味しい弁当なら、ゲットできるかもしれないが、不確定利用の客に対して、ランニングコストは一定額の支出を伴う。黒字にできるほどのリピータを獲得できると、本当に信じているのだろうか。どうせなら、千歳方面に、ローカル色を出した美味しいメニューで、勝負してみる方が、野心的だ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できません。</li> <li>しかし、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</li> <li>・なお、公社は収支改善に向けて、拠点整備事業に取り組む考えであり、株主総会においても一人として反対意見はなく、その方針が確認・承認されています。</li> <li>・今回の拠点整備事業に当たっては、「市街地に飲食店が少ない」との声が多くあり、市街地活性化と公社収支改善等の目的で、当該施設を整備することとしました。</li> <li>町内の旅館・飲食店では既に各々特色や魅力あるメニューがあり、皆さんに支持されていますが、当該施設でも町民・来訪者が喜んで満足してもらえるようなメニューを開発・提供していきますので、既存飲食店との相乗効果が期待できると考えています。</li> </ul>

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>多死社会到来で、潜在的葬儀社需要は高い。高齢化で、地区単位の葬儀も、負担になっているし、親族が、御寺で布団の通夜はつらい。</p> <p>環境学習センターを、リフォームして、10人程度宿泊できる個室とセレモニーホール部分を設けて、小さな葬儀に対応してはどうだろうか。お風呂あり、キリカから仕出しも、提供してもらえし、経営上も、安定すると思う。</p> <p>宿泊施設を無くして、民間によるコテージで代替する案が提示されていたと思うが、オートキャンプ需要も、落ち込み、スノーピークは、上場廃止し、設備投資は、控えるようだ。温泉近くのコテージ構想に、変化はないのだろうか。</p> <p>新幹線開業も、5年程度先送りされる。本州観光客の集客戦略は見直し必至だが、ビジネス客は、長期見込める。</p> <p>くどいようだが、自然の家を、最低限の経費で、改修して維持し、外貨獲得が得策と思う。</p> <p>市街地レストランと、既存旅館の仕出し、宴会競合を招きやしないか、心配が募る。有償ボラ営業なら、良いが、スタッフが満足するほどの稼ぎが達成できるとは思えない。</p> <p>いつの時代も、青年は、荒野を目指すが、冒険と馬鹿は、違う。冒険は、緻密な計算、安全帰還を用意周到に練る。</p> <p>トワ・ヴェールⅡは、国土交通省が、後から、道の駅として、指定させてくれと、乗っかってきたもの。人気を博していたのは、道の駅だからでなくて、そのコンセプトが明確で、安全安心で、オリジナルな美味しい地元の手作り農畜産加工品物が、大手企業では、取り組めないニッチでプチ贅沢さが受けてきたからだ。</p> <p>最近では、ラベルだけ地元や、色々な町の保存料をふんだんに使った産物も陳列され、他の道の駅を真似て、ブランドや、コンセプトが無くなっている。</p> <p>もっと、稼ぐため、あれもこれも欲張っているが、一度ブランドを下げると、ファンは、離れる。</p> <p>ブランドは、信用だから。他の自治体が、形をマネしても、他に負けない核があれば、あわててはいけない。</p>	

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>必要なのは、本物であるかどうかにつきる。本物の農畜産物、加工品の研究が途絶え、施設改修に向かっている。完結している施設に増改築するほど、工事費がかかり、売り上げで、改修費を、回収するのは、至難の業。</p> <p>地場農産物売り場でなくて、アウトドア用品、ドラッグストアと、過去のアイデア復活だが、安直だけれど、まあ、許容範囲か。</p> <p>魅力的なアプリ、コンテンツの開発が、持続的発展を約束する。</p> <p>急がば回れ、原点回帰だと思う。</p> <p>最後に、20年後には、耐震補強しなければ、歌才自然の家は、歴史文化財的価値として保存するか、解体するか、確実に問われる。</p> <p>その時、ロビーのブナ材を使用した家具類は、秋田木工による特注品であり、当時として、700万以上の費用を費やしている。</p> <p>現在大塚家具に合併されたが、これほどの家具は、今は、数倍、価格が高騰しているはず。大塚家具に、買取を依頼してみてもどうかと思う。一般財源の足しにはなると思う。</p> <p>いかにして、人口減少の速度を、遅滞させるか・令和の合併を遅らせるか。</p> <p>黒松内を動かす外貨獲得エンジンは、福祉、農業、交流観光産業加工業（黒松内銘水、トワ・ヴェール、堆肥センター、町外受注建設会社、水産加工会社）、町外客の利用がある特定の商店等で、稼いでいるのは、この5分野である。</p> <p>定住する2,500人の財布を当てにしても、域内にお金が回るだけ。定住箱物インフラを、流行に合わせた過度な改修で、胸を張っても、財政の硬直化が進むだけ。</p> <p>優先すべきは、平成の合併時、削減した、多岐に渡る行政経費だと思う。使用料の期待できない社会体育施設の運営見直しとともに、地域振興に結びつかない、目的を達成したイベント、調査委託等を止め、コミュニティビジネスの起業支援や、外貨獲得エンジンを点検稼働させながら、環境との調和を図りながら、新分野の雇用の場の創出に尽きる。</p> <p>理事者や議員、行政委員等の報酬を自ら削減し、町職員や公社の職員を増やし、研修させ、資源を、コンクリートから人に投資する姿勢無くして、魅力的人事確保は困難だと思う。</p>	

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
	<p>新幹線によって、大都市圏より、2時間圏域の地方は、田園住宅地となっている。</p> <p>美しい景観を育て、自然環境を守っていくには、息の長い投資も必要だ。美しい村は、セカンドライフが充実する田園住宅地の候補として価値を高める。</p> <p>縮小社会において、高齢者社会福祉需要も、減少の一途をたどる。</p> <p>雇用、経済のパイが、相互に関連して縮小する。</p> <p>定住人口2,000人時代の定住インフラの在り方を、構想すれば、広域的利用も見込めず、稼げないプールは、廃止か植物工場に転用、体育館の外部委託の見直しは、必至。</p> <p>サバイバル時代を勝ち残るためには、その町のポテンシャル、特性、個性、本物を、武器として、自覚し、磨きながら、闘い続けるしか勝機は、無い。借り物、物まね、小手先で闘っても、結局、敗退する。</p> <p>伝統を否定することが、進歩、進化だと勘違いすることがあるが、本物の伝統とは、基本理念を守りつつ、この型を破り、新しい作品を生み出すこと。10年続ければ、マンネリでは無くて、文化だという例えがある。そういう意味では、自然の家は、心のよりどころ、文化的施設でもあることを認識されていないのが、悲しくもある。</p>	

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
②	<p>22年前、ブナの新緑が風にゆれる6月に移住してきました。</p> <p>水の美味しさと空気間のすずしさにお宝をもらった気分になり、その気持は今も色あせていません。</p> <p>緑いっぱいの町中風景、ブナの樹々は訪れてくる人々を心豊かにしているのは云うまでもありません。</p> <p>都会からのバスツアー、ブナウォッチング、フットパス、黒松内岳登山、朱太川のつり、そして黒松内産チーズ、ソーセージとお宝いっぱい。新鮮な自然が来客者を楽しませてくれています。</p> <p>加えて温泉もゆったりと。来客者には日帰りするには、もったいない条件があります。宿泊してこそ、黒松内の良さを満喫できる筈です。</p> <p>自然の家の修復には膨大な予算が、と云われていますが10年、20年のスパンで、とらえ、必ず取り戻しは可能だと思います。黒松内町にとって大きな資源に繋がると思います。どうか建て壊さないで下さい。</p> <p>半分の費用（町中飲食店）で済むかも知れませんが、来客者は満足するでしょうか。町にとって自然の家の収入は大きな財産につながる筈です。</p> <p>早急に結論を出さず、町民主体の議論の場を作っていただきたいと思います。</p>	<p>・歌才自然の家は、3つの大きな問題を抱えています。一点目は、施設の老朽化で、現状のまま今後20年間使用すると仮定して改修した場合、およそ3億5千万円程度の事業費が必要になります。また、建替による新築を行う場合、現施設の解体費を含めると、およそ9億8千万円程度の事業費が必要になります。</p> <p>二点目は、慢性的な赤字経営です。歌才自然の家単体での収支は、これまでも収支不足が続いていましたが、物価高騰などの影響により令和5年度決算では、2千3百万円の収支不足となりました。</p> <p>三点目は、人手不足です。歌才自然の家のほかに、黒松内温泉や道の駅を運営している公社では、人手不足の影響で、営業時間の短縮など、各施設の運営に支障が出ている状況です。</p> <p>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</p>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
③	<p>なんだか町民が置いてけぼりのまま、自然の家の解体、こちらの事業の話が進んでいることを少し残念に思います。老朽化で取り壊すことを決める前に、もう少し皆で議論する場があってもよかったのではないかと、とてもお世話になっていた、気に入っていた施設ただけに非常に残念です。せめて、こちらの拠点がいいものになってくれることを切に祈っています。</p> <p>正直思うのは、自然の家のレストランをそのまま町中に持ってきても多分うまくいかないだろうなという事です。あまり多くの町民が利用しないのは場所だけのせいではないと思います。私は自然の家さんを応援したく、レストランを出産前はそこそこの頻度で利用させて頂いていましたが、サービス（店員さんの対応）、味、品揃え、メニュー、どれもイマイチだなと思っていました。特に、黒松内をウリにした定食のヤマメがすごく小さいのは、資源保護の観点からアウトだと思います。パタゴニアの人が知ったらびっくりすると思います…。町中には味もよくお客さんと信頼関係を築きがんばっている飲食店さんがいくつかあると思うので、そこと競争はしてほしくないですし、商売を邪魔するようなことはしてほしくないです。町中にあるといいなと思うのは、カフェのような場所だと思います。集まれる場所がないというのはよく周りから聞きますし、長万部のカフェまで通っているという話も聞いたことがあります。個人的には子連れで利用できる場所だとありがたいなと思います。子ども連れで飲食できるスペースはとても限られるので…。(体育館のカフェスペースは小さい子には不向きです(自動ドアですぐ外に飛び出す、テーブルが高いなど)、マナヴェールも汚すのを躊躇して利用していません。保育園内の子育て支援センターが開いていればそこで食べさせるか、自然の家には子ども用のイスがあったりするので利用したりしています。でも、本当にそこくらいしかありません。温泉のメニューはそばメインなので小さい子には不向きですし。道の駅にも子ども用のイスなどはありません)</p> <p>少し子どもを遊ばせながらおしゃべりを楽しめるような場所があったらいいなと思います。パフェが食べられる場所がないという事もよく聞くので、メニューに入れてもらえるとうれしいです！</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和4年7月に町議会へ「歌才自然の家」の課題等について説明したことから始まり、その後、「今後の交流施設の在り方」について調査・報告を行い、まちづくり推進委員会への諮問・答申などを行ってきました。また、昨年12月以降の出前町長室や商工・建設・観光関係団体、福祉団体との懇談会、各町内会の会合、区長会議などの場で、本事業についてお知らせしてきました。黒松内町議会広報第226号（令和6年5月23日発行）においても、令和6年度一般会計予算に対する予算審査特別委員会の審査意見や、令和6年第1回定例会における一般質問の内容などが掲載されています。</li> <li>・現在の歌才自然の家キリカに対するアドバイスとして承りました。公社と情報を共有し、今後のレストラン運営の参考とします。</li> <li>・今回の拠点整備事業に当たっては、「市街地に飲食店が少ない」との声が多くあり、市街地活性化と公社収支改善等の目的で、当該施設を整備することとしました。</li> </ul> <p>町内の旅館・飲食店では既に各々特色や魅力あるメニューがあり、皆に支持されていますが、当該施設でも町民・来訪者が喜んで満足してもらえるようなメニューを開発・提供していきますので、既存飲食店との相乗効果が期待できると考えています。</p>



	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
④	<p>＜にぎわい活動拠点整備に伴う飲食店の整備について＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経過資料の箇所にも、後継者不足や人口減少で飲食店が減ったことで賑わい/コミュニティの場の不足が減少したとありますが、その話と自然の家の営業赤字を止血やスタッフ不足による飲食事業の移転検討について、両方を合わせて解決しようとしている部分が多くありません。それぞれ違った解決方法があると感じます。</li> <li>・後継者不足に対する支援をこれまで町としてはやってきたことがあるのでしょうか？私はまだ移住して2年ほどなので、過去にあった飲食店を存じないのですが、地域で大切なお店の後継者対策のために、例えば、地域おこし協力隊の制度等、町外から来た人材を活用して後継者対策などやると効果的だったようにも感じます。また、仮に人口減少による集客の減少が店舗減少の原因だった場合、そもそも地域住民がもっと地域のお店をしっかりと利用するという姿勢が必要なのではないでしょうか？そうでなければ、新しい飲食店舗も利用されないと思います。</li> <li>・場合によっては、町中心部以外、歩ける範囲ではないエリアの方々の来訪も含め、交通施策に対する取り組みを行う方が、飲食店の閉店対策としては適当であった可能性もあります。Maas 関連など、これまでそういった視点で検討したことはありますか。(例:willer 社が行っているmobi のサービス等) そういった方法で新たな需要を掘り起こす方法もあるはずですよ。</li> <li>・中規模の飲食店(50~60人利用)がまちなかにあると便利であるのは理解できますが、例えば昼夜営業だとした場合、ブナの里新興公社の人員不足は特段解消されないのではないのでしょうか？飲食店営業の事業計画は具体的にお決まりだとは思いますが、計画資料の公開を求めます。</li> <li>・防災機能を備えるということですが、総務省資料「自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債活用の手引き」を見ると、防災対策も行う名目も踏まえて地方債を活用するという構想でしょうか？できる限り有効に予算を獲得、使用していただきたいので、この辺りの予算措置についても公開を希望です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公社が人手不足のため歌才自然の家の営業を継続することができないことと、市街地の飲食店不足はどちらも喫緊の課題と考え、今回の事業の着手に至りました。</li> <li>・17年前の平成19年から黒松内町にぎわいづくり条例(旧黒松内町商店街にぎわいづくり条例)を整備し、町商工会と連携して新規開業支援による後継者づくりを含め、商工業の振興対策に取り組んでいます。地域おこし協力隊制度も活用していますが、任期満了後の町内での飲食店開業といった実績には結びついていません。</li> <li>また、町内商店を利用していただくため、プレミアム付き商品券発行事業やポイントカード事業など、町商工会が実施する事業に対して補助しています。</li> <li>・交通施策については、単に飲食店誘客対策に留まらず、医療・福祉分野や教育分野なども含めた町全体の課題として検討しています。</li> <li>・飲食店営業の事業計画(まちなかにぎわい活動拠点の事業計画(6月10時点))については、21ページ以降に資料を掲載していますので御参照ください。</li> </ul>

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>・ 図面を拝見しましたが、アーキビジョン21 のスマートモジュールの図面でした。私自身、アーキビジョン21 の代理店としてトレーラーハウスを販売していた経験がありますので、投資規模もある程度イメージがつかます。全体の投資規模が1億8千万円とのことですが、外構費や太陽光システム、EV充電設備の費用はどのくらいの規模でしょうか。前のコメントと同様、支出の予算規模を知りたいです。</p> <p>・ 配置図・平面図ではトレーラー7台仕様になっていますが、南・北面立面図だとトレーラー8棟連結の資料になっています。どちらが正しい計画でしょうか？</p> <p>・ 座席配置を見ると、大規模な宴会もしにくい座席配置になっています。自然の家の飲食機能を移転する際に、全体を活用した宴会貸切は想定していないのでしょうか？施設全体貸切も想定しているのであれば配置を再考すべきと思います。</p> <p>&lt;にぎわい活動拠点整備に伴う宿泊事業の今後について&gt;</p> <p>・ 宿泊事業は完全に廃止になるのでしょうか。歌才自然の家は、都市農村交流を推進する「ブナ北限の里づくり構想」に基づいて整備した最初の施設ということで、町の宿泊拠点として重要な機能を果たしてきたと思いますが、今後町として、滞在拠点に関する方向性はこういったことをお考えでしょうか。この辺りもコメントをいただきたいです。</p> <p>・ 町資料「ブナの北限の里づくりをめざして」を読むと、歌才自然の家の整備に充てた事業費は、道振興補助金/地域総合整備債/ふる里創生資金を活用している記載があり、町の一般財源としては、7,716千円の投資となっていました。厳しい運営は続いていると思いますが、町の自己資金による投資規模は最小限になっている施設であり、運営赤字幅によっては、町として意味のある資金使途と見ることができると思います。宿泊者によるその他町内施設の利用なども考えると、宿泊をやめることにより、</p>	<p>・ 「自治体施設・インフラの老朽化対策・防災対策のための地方債活用の手引き」では『緊急防災・減災事業債』等について触れられていますが、本施設は防災が主目的の施設ではないため、『過疎地域事業債』を活用する予定です。元利償還金の7割に相当する額が国から地方交付税措置されます。</p> <p>・ 歳出予算の概要としては、令和6年度に新築工事131,329千円・厨房備品購入13,671千円、令和7年度に外構工事10,000千円で、総事業費155,000千円を見込んでいて、5月時点から内容を精査して減額しています。</p> <p>また、太陽光システムやEV充電設備については町予算ではなく電力事業者の負担で設置するように調整中です。</p> <p>・ 7台連結仕様になります。</p> <p>・ 60人程度が一度に利用可能な貸切営業も想定し、間仕切りを開放して広いスペースとすることができるよう検討を進めていますが、通常営業時には仕切られたプライベート空間も必要と考え、このようなレイアウトとしています。</p>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
	<p>町内の経済効果も合わせて縮小する可能性も大いにあると感じます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在ビジネス客が大半というのも、ニーズが変化してきているからだと思います。今、宿泊事業は運営方法も様々でローコストに運営することも可能です。施設改修や新規投資により、投資回収をある程度早く見込める可能性は、飲食事業より宿泊事業の方が、大いにあると思います。</li> <li>・町の事業をして宿泊を行わないのであれば、今後宿泊整備に関する助成を含めた予算措置のようなものはお考えでしょうか。</li> <li>・都市農村交流を増やしていきたいと構想中です。アルベルゴディフーズのような分散型の地域づくりや、近場だと（株）ニセコまちのように民間の活力も生かしながらのモデルもあります。黒松内らしい小さなエコビレッジ的なエリア作りができると良いと考えています。都市農村交流と黒松内らしい暮らしのできる住まいがあることで、住民（こども）が増え、町の魅力を大きく発信する重要な施策に必ずなると考えます。宿泊機能（もしくは宿泊事業に対する何らかの投資）は引き続き町として検討をお願いできたらと思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</li> </ul>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
⑤	<p>まず、町の姿勢として伺います。</p> <p>○「自然の家」休止について、「いつ、誰が勝手に決めたの？」との町民の声が多くあります。町政執行方針で、町長は毎年のように、『町民の声が届く町民主役の町まちづくり』を基本に取り組み、『訪れてみたいまち』として着実に前進したと確信している。」と自画自賛していますが、今般の整備事業についても、事前に町民の声を聞かずに関連予算を議会に提案し、その成立後に（既成事実としてから）「皆さんの意見を下さい。」としているのは、行政による「アリバイづくり」そのものであり、独断的で言行不一致ではないですか？</p> <p>（これまでも、「私の思い」に幾度か投稿しましたが、質問の趣旨が理解できないのか、何度問いなおしても的外れな回答しかもらえませんでした。）</p> <p>○そもそも、「市街地に新たな拠点施設を整備することとした」ので「意見を下さい」ではなく、「市街地に新たな拠点施設を整備することを検討している」ので「意見を下さい」とすることこそ「町民の声が届く」になるのではないですか？</p> <p>それとも、もう決めたことだが一応意見を聞いたことにしておこうという、行政として最低の「アリバイづくり」なのですか？</p> <p>○年度当初予算には本體工事費が含まれていないようなので、今後の議会に予算を提案するのですが、町民からの意見に対して納得のいく回答を示し、多くの町民の理解が得られるまでは、予算の計上や事業の発注はしないということでもよろしいですね？</p> <p>○3月の町議会で「昨年3月に、まちづくり推進委員会から施設のあり方等について意見を頂いた」としていますが、どのような諮問をして、どのような答申があったのか、ほとんどの町民は知らないと思います。町の将来に関わることであり、このような諮問・答申があった場合は、その内容（議事録を含めて）を広く周知・公表して、町民と情報を共有することが大事だとは思いませんか？</p> <p>本件についても今からでも公表してください。</p> <p>○これまでも、様々な案件で意見募集がありましたが、回覧であったり、各戸配布であったり、その態様は区々です。せめて、各戸配布とHPの2系統に統一しませんか。</p> <p>回覧は、ろくに見ないで早く隣家に回ってしまうことが多く、家庭にコピー機でも無い限り手元に残らないので、意見募集があるなんて忘れてしまいがちです。</p>	<p>・令和4年7月に町議会へ「歌才自然の家」の課題等について説明したことから始まり、その後、「今後の交流施設の在り方」について調査・報告を行い、まちづくり推進委員会への諮問・答申などを行ってきました。また、昨年12月以降の出前町長室や商工・建設・観光関係団体、福祉団体との懇談会、各町内会の会合、区長会議などの場で、本事業についてお知らせしてきました。</p> <p>黒松内町議会広報第226号（令和6年5月23日発行）においても、令和6年度一般会計予算に対する予算審査特別委員会の審査意見や、令和6年第1回定例会における一般質問の内容などが掲載されています。</p> <p>・拠点整備は、黒松内町みんなで歩むまちづくり条例の町民参加手続きの対象事項に該当（事業規模が新設1億円以上）し、町民の皆さんから御意見を広くいただく必要がある事業のため、町議会への予算上程前に、今回の「町民意見収集手続」を実施しました。</p> <p>・町民の代表である町議会と適宜協議しながら施策を立案し、予算を含む事業内容は議会で審議され、可決された上で執行しています。</p>

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>以下、整備事業（案）の内容について</p> <p>○（案）では、防災機能として「災害時に炊き出しが提供できる機能」を掲げていますが、河川氾濫時には周辺が浸水域となるので機能不全となるのは明白で、「自然の家」が稼働していれば、問題なく対応できます。町民センター改修に対する意見に対しても、豪雨被害の際の避難所としては想定していないので、現在地での改修で問題ないとしています（そもそも、ハザードマップでは、河川氾濫時の避難場所がどこか全くわかりません。ほとんどの町民は同じ避難所だと思っていると思います。）が、それであれば、なおさら、「自然の家」の機能（炊き出しはもちろん、入浴も可で、高齢者や病弱な人々等が個室でストレスなく避難生活ができる場所としても最適）が役立つのではないですか？（現在は、避難所に指定していませんが、避難所として最適だと思います。宿泊客がどうのこのというなら、緊急時にはこちらからお断りするということでしょう。そもそも、大災害時にあえて来る人はいないと思います。）</p> <p>○「利用者の6割がビジネス・一般客の利用」とあります。町が自然体験学習宿泊施設として対外的にどれだけPRしてきたのかは知りませんが、一般にも利用してもらえるのはありがたいことでしょう。市街地に旅館が2軒ありますが、小規模で、長期利用者が多いこともあり、宿泊が難しいことから必然的に「自然の家」を利用することになるのではないですか。また、「自然の家」利用者の大半は町外の方々です。実際に利用されている方々の意見も把握するべきではないでしょうか？</p> <p>○「自然の家」に替わる宿泊機能について、町長は町政執行方針で、町内民間旅館の増改築や、町外企業の誘致などの可能性を検討するとしていますが、既に二つの旅館からは断られたと聞きますし、町外企業による宿泊施設開業について目途が立っているのでしょうか。</p> <p>そうでなければ、年間数千人の宿泊者は隣接町等に流れてしまい、町内の資器材等納入事業者にとっても大きな損失となります。また、泊まる場所もないのにどうして「訪れてみたいまち」になるのでしょうか？</p> <p>○昨年閉店したラーメン店が、元店主のお孫さんがUターンしてこの春より再度営業を始めました。これからメニューも工夫して頑張りたいと、新聞記事にも掲載されていました。他にも厳しい中で、飲食店として頑張っているところもあります。また、小学校近くに食事のできる施設の開業を検討している方がいるとも聞いています。市街地中心部に（案）のような規模の施設を造ること</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・令和6年度第2回定例会において、本体工事の予算を提案し、賛成多数により可決されました。今回の町民意見収集手続により集めた御意見（当該施設のメニューや機能、レイアウトのほか、現在のレストランキリカに対する改善点など）を反映していきます。</li> <li>・黒松内町まちづくり推進委員会からの答申内容について、21ページ以降に資料を掲載していますので御参照ください。</li> <li>・「町民意見収集手続の公表」は、黒松内町みんなで歩むまちづくり条例施行規則第3条に基づき、町ホームページへの掲載、町広報誌への掲載、役場庁舎内の掲示等により行っています。今後は町公式LINEなども併用し、周知していきます。</li> <li>・地震や風雪害による被災を想定しています。</li> </ul>

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>は、こうした方々に対する、「官」による営業妨害になるのではないのでしょうか？</p> <p>○黒松内の町民の多くはあまり外食しないとも聞きます。当該施設が開業した後、しばらくの間は物珍しさもあり、賑わうかもしれませんが、半年もしないうちに、喜んでいるのは職場のすぐ隣に食事処ができる町職員だけということになることを危惧しています。</p> <p>○足のない町民にとって、「自然の家」まで歩いて往復するのは至難の業です。福祉バスや日中は動かないスクールバス等を活用して、シャトルバスの運行も検討するなど、少しでも町民の利用を促進する努力をするべきではありませんか？</p> <p>○いずれにしても、私としても開業時から数え切れなだけ利用させてもらっていますが、いつ行っても手入れが行き届き、清潔感があり、改修しきれないほどどこが傷んでいるのかよくわかりません。自然の豊かさを誇りとする黒松内町の象徴的な施設でもある「歌才自然の家」を無くすことは、町の将来に禍根を残すことになり、強く反対します。</p> <p>○一方的に進めるのではなく、町民の声をよく聞いて、民主的な行政を遂行してください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</li> <li>また、町商工会（市街地旅館含む）との協議は継続しています。</li> <li>・今回の拠点整備事業に当たっては、「市街地に飲食店が少ない」との声が多くあり、市街地活性化と公社収支改善等の目的で、当該施設を整備することとしました。</li> <li>町内の旅館・飲食店では既に各々特色や魅力あるメニューがあり、皆に支持されていますが、当該施設でも町民・来訪者が喜んで満足してもらえるようなメニューを開発・提供していきますので、既存飲食店との相乗効果が期待できると考えています。</li> <li>・交通施策については、単に飲食店誘客対策に留まらず、医療・福祉分野や教育分野なども含めた町全体の課題として検討しています。</li> </ul>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
⑥	<p>①自然の家を改修し、コロナ下で年4千人の宿泊実績を今後も活かし発展を！</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ブナ里構想は、里づくりの柱です。自然の家は、中核施設で、戦略的な交流施設として、30年以上活躍してきました。赤字黒字の目先でない誇りある価値を作った先人の苦勞に感謝です。自然の家を改修充実することを願います。</li> <li>・「ブナの森を眺めて、家族と食事するのがいいよ」と高齢者が話され、町中では味わえない魅力ある環境です。</li> </ul> <p>②年4,000人の宿泊客の半分は、子ども達、登山客含め観光客研修等の利用客で、自然の家の秋の閉館で直ぐに困り、貴重な宝を手放すこととなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一旦手放すと、回復は容易ではありません。全体像の里づくりに係ることですが、町民が見える場、議論に参加できる場が全く不足しています。</li> </ul> <p>③「活動拠点案」は活性化に繋がる計画がなく全体像の議論を時間かけ検討を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・550万円かけた案は、1日100人の利用客数という過大な予想で、赤字の原因にもなり町が活性化する計画が見えません。「里なか食堂」等として民間委託等の小規模で検討はどうでしょうか。</li> <li>・何より、里の活性化とは色々な要因があります。宿泊機能について、旅館、温泉施設整備、民間企業誘致という組み合わせのまちづくり委員会の意見で具体的な提案はなく、今回の飲食部門の移転、拠点案のみが先行提案されています。全体像の議論を、時間をかけ検討し里づくりに繋げて欲しいと思います。</li> </ul> <p>④まちづくり基本条例を柱に、町民が、ブナ里構想で培った誇りがもてる時間をかけた全体の議論（アンケート、フォーラム、町議会、各地区の会合等）とブナ里構想を活かした、町民参加の取組を希望します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</li> <li>・昨年12月以降の出前町長室や商工・建設・観光関係団体、福祉団体との懇談会、各町内会の会合、区長会議などの場で、本事業についてお知らせしてきました。また、町民の代表である町議会と適宜協議しながら施策を立案し、予算を含む事業内容は議会で審議され、可決された上で執行しています。</li> <li>・まちなかにぎわい活動拠点の事業計画（6月10時点）については、21ページ以降に資料を掲載していますので御参照ください。</li> <li>・町総合計画など大きな方針を決定する場合は、アンケート調査や審議会の設置など条例に基づいた手法を用いていますが、今回の事業については、町民の皆さんから御意見をいただくため、黒松内町みんなて歩むまちづくり条例に基づき、町民参加の手法の一つである「町民意見収集手続」を実施しました。</li> </ul>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
⑦	<p>黒松内町のブナ北限の里づくり構想に置いて、宿泊施設（交流施設）は、重要な施設です。赤字だからと行って、宿泊施設のみを切り捨てるのであれば、ブナ里構想の変更を考えるべきでは。</p> <p>まして、宿泊施設の代替と言っている、民間施設への予算処置を明示しないで、休館・廃止を先走るのは、何故でしょうか？</p> <p>コロナ禍では、多くの交流・観光施設が、窮地にさらされています。対応策として、ビジネス客に使われていることを、町が掲げていた交流にそぐわないからと言うのは、かなり偏見では無いでしょうか？</p> <p>市街地に飲食施設を新設するにしても、新しい予算が必要ですし、その施設が赤字を生まないとは、言い切れないはず、更に、既存の個人店舗の圧迫にもなり得ます。</p> <p>ブナ里構想の変更等も合わせた施策として行うべきでは。</p> <p>また、このパブリックコメントに置いて、この程度の内容、文章で住民に意見を求めるのは、いささか省略しすぎと思います。</p>	<p>・歌才自然の家単体の令和5年度決算は、物価高騰などの影響により2千3百万円の収支不足となりました。収支は、企業や社員にとって、重要な要素であり、慢性的な収支不足が社員の処遇改善に取り組めない大きな要因にもなっているため、公社が施設を安定運営していくためには社員の処遇改善を欠かすことはできません。</p> <p>また、町は毎年、公社の多額の赤字を補てんしていますが、赤字が減額すれば、その財源を人口減少対策や福祉、子育てなどのほかの施策に充てることができ、厳しい財政状況の中で、公社の経営改善は最優先で取り組まなければならない喫緊の課題であることを御理解ください。</p> <p>・今回の拠点整備事業に当たっては、「市街地に飲食店が少ない」との声が多くあり、市街地活性化と公社収支改善等の目的で、当該施設を整備することとしました。</p> <p>町内の旅館・飲食店では既に各々特色や魅力あるメニューがあり、皆に支持されていますが、当該施設でも町民・来訪者が喜んで満足してもらえるようなメニューを開発・提供していきますので、既存飲食店との相乗効果が期待できると考えています。</p> <p>また、町民の皆さんが親しみやすく、愛着を持って何度でも利用していただける施設となるよう、町としても、指定管理予定の公社をしっかりと支援し、経営改善に繋げていきます。</p>



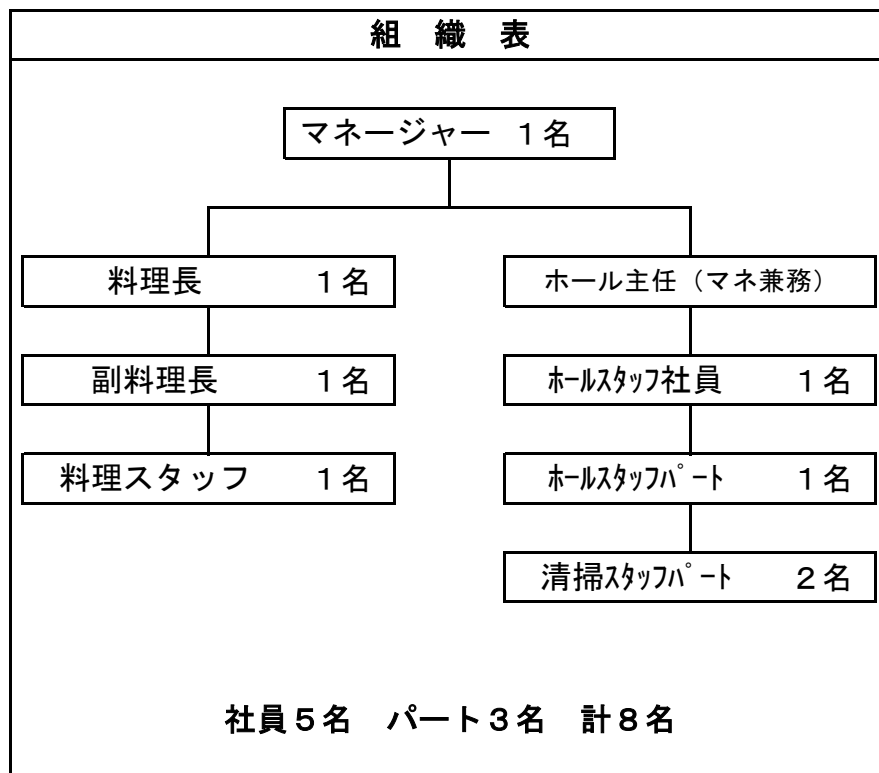
	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
⑧	<p>「ブナ北限の里づくり構想」において、「歌才自然の家」は、宿泊施設として、大きな役割を担ってきました。</p> <p>「歌才自然の家」を廃止して、新たな飲食店を開業するというのですが、それは、あくまで、レストラン機能の代替えであって、宿泊施設としての機能は、どうやって、代替えするのでしょうか。現在ある旅館、宿泊施設では、その受け入れ体制を考えると、全く、代替えにはならないことは、周知のことです。</p> <p>「ブナ北限の里づくり構想」では、来訪者がゆっくり過ごすことが出来る宿泊施設が必要と考え、まず、宿泊施設として、「歌才自然の家」が整備されました。</p> <p>つまり、「歌才自然の家」の宿泊機能は、「ブナ北限の里づくり構想」において、欠けてはならない大事な要素なのです。その大事な要素を廃止するということは、「ブナ北限の里づくり構想」を廃止するというに等しいのではないかと、考えます。</p> <p>また、「歌才自然の家」を廃止するというのですが、「ブナ北限の里づくり構想」において、大事な要素である宿泊施設を廃止して、町として、今後、どのようにして、「ブナ北限の里づくり構想」を継続していくのでしょうか。その展望をお聞きしたいです。</p> <p>むしろ、老朽化を理由に宿泊施設を廃止して、「ブナ北限の里づくり構想」を実質的に、機能しないものにしようとしているのでは、と危惧してしまいます。</p> <p>「歌才自然の家」を廃止して、新たな予算で、飲食店を作るとのことですが、それでは、「歌才自然の家」の宿泊施設としての大きな機能は、どこに行ってしまうのでしょうか。</p> <p>改築は、新築よりも予算がかかるということですが、改築して、宿泊と飲食の2つの機能を維持する方が、「ブナ北限の里づくり構想」を継続していけるのでは、と考えます。</p> <p>「歌才自然の家」の廃止よりも、どのようなすれば、予算を安くして、改築できるかを考えていただきたいと強く望みます。</p>	<p>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</p>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
⑨	<p>1 町内に食事できる店が少なすぎます。レストラン整備は賛成です。早く進めて下さい。</p> <p>2 レストラン案は場所、配置、形、広さ、間取り、建設費ともに適当だと思います。</p> <p>3 毎年公社の多額の赤字を町が補てんしていますが、赤字が減れば、そのお金を人口減対策や福祉、子育てなどに使うことができます。レストランの運営が公社の赤字減につながるのなら早く進めるべきです。毎年数千万円補てんし続けるより、その数年分のお金でレストランを早く整備して、まちの活性化に取り組むべきです。それが持続可能なまちづくりです。多額の赤字補てんを前提とした事業に将来性はありません。</p> <p>4 人材不足は公社だけでなく、全ての業種で起きている問題です。すぐには解決できないので人気の高い道の駅に人員を集めて売上を伸ばすなどスタッフの配置を再考する良い機会だと思います。</p> <p>5 歌才自然の家は30数年間まちづくりに大きく貢献してきた建物だと思います。当時のコンセプトと今の利用者ニーズが合っていないのは社会やライフスタイルなどが変化しているのだから当然の成り行きです。変化に柔軟に対応し続けることが大切です。また、建物は時の経過とともに劣化し、朽ちるものです。来訪者のニーズに合った宿泊施設の整備も含めたお迎えの方策を、費用対効果、民間活用の視点も入れて考えていくべきです。</p> <p>6 今のキリカは、車移動が必要なので不便を感じる町民は多いと思います。運転手は飲酒もできず、送迎はスタッフ不足で難しい場合が多いです。とにかく徒歩圏内の市街地での整備をお願いします。</p> <p>7 歌才自然の家の問題を一番認識し、解決すべく取り組んできたのは公社であり、その最前線にいる現場のスタッフです。公社と現場スタッフが抱えている問題を共有して解決策に反映させてほしいです。特に公社の収支状況の悪さがスタッフの処遇を図れないことも関連しているようなので、公社が管理している施設の安定運営にはスタッフの処遇改善は欠かせない視点だと思います。</p> <p>8 巷の話を聞いていると自然の家の問題点を重要視せず、続けてほしいとの願いだけ声を大きくして話す方が割と多いよう感じます。問題の共有が不足すると解決策も人によって変わってしまうので、その点は丁寧に進めてほしいと思います。</p> <p>9 レストランメニューは地元食材を使ったものも提供するなど、満足度の高いメニューにしてください。</p>	<p>・まちなかにぎわい活動拠点施設は、現時点では令和7年3月のオープンを予定しています。</p> <p>・「歌才自然の家」については、人手不足のため、公社では運営を継続できませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討すると共に、町外民間企業の誘致や、町内宿泊事業者の増改築に対する助成などを並行して検討し、来訪者の宿泊に対応していきます。</p> <p>・町議会での審議や広報くろまつないなどを通して、丁寧に情報を提供していきます。</p> <p>・メニューについては、当該施設を指定管理予定の(株)ブナの里振興公社（以下、「公社」という）によるアンケート調査を令和6年7月末に実施します。いただいた御意見もメニューなどに反映していく予定です。</p>

	寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
⑩	<p>町内に新たな拠点施設が整備されることとなり、市街地がにぎわうような動きがあることは、町民としても嬉しい限りです。財政面だけでなく、様々な点で難しさもある事業かと思いますが、町のための新たな案をご提案くださり、ありがとうございます。</p> <p>市街地に、レストランに限らず、カフェ的な機能やイベント、防災機能も備えた新たな拠点が生まれるのはとても楽しみなことです。</p> <p>一方で、交流観光を軸に進めてきた黒松内町の歴史はもちろんながら、これからの町のことを考えると、やはり歌才自然の家のような宿泊施設の存在はとても大きいのではと考えます。歌才自然の家の老朽化や人手不足など、様々な課題があることは承知しているつもりです。設備事業（案）の「1 施設の整備に至った経緯」には「現在の部屋の間取りのままでの改修を行うだけでも多額の費用が必要になります」とありますが、例えば現在の部屋の間取りのままでない形でしたら改修、もしくは違う形で宿泊施設をつくる、ということは不可能なのでしょうか。</p> <p>黒松内町が他の市町村にさきがけて策定した生物多様性地域戦略は現在においても道内でわずか4市町村しかないという、国内外にむけてのアピールポイントになります。</p> <p>それに加えて、記念町が北海道大学やパタゴニア・C&amp;Aなどの企業と締結している協定もこの生物多様性戦略にのっかって進めてきた数々の町や関連団体の功績であり、先日行われた「生物多様性ダイアログ黒松内」の中でも、全国的な著名な研究者の方々から“黒松内は生物多様性のホットスポット”と称されていたことは、特筆すべきだと感じました。</p> <p>また、この町の自然との共生のストーリーに惹かれて移住され、町の自然をいかした形で食に関わることをされている方がここ数年で増えたこと、世界的なSDGsへの取り組みへの意識の高まりなどを鑑みると、黒松内町の資源はそういった流れにもあっていると、僅かながら海外からの受入をしている身としても感じます。</p>	<p>・歌才自然の家は、施設の老朽化対策のため、現状のまま今後20年間使用すると仮定して改修した場合、およそ3億5千万円程度の事業費が必要になります。</p> <p>また、現在の宿泊者ニーズに合わせるために、例えばシングルルームなどを造る場合には、建築基準法などの制限で、改修は不可能であり、建替による新築を選択しなければならず、現施設の解体費を含めると、新築にはおよそ9億8千万円という多額の事業費が必要となるため、厳しい財政状況の下、町では整備することができません。</p> <p>また、公社は人手不足のため、運営を継続することができませんが、都市と農村の交流を推進する上で、宿泊施設は重要な役割を果たしていますので、「歌才自然の家」の宿泊事業を含む新たな活用方法について検討していきます。</p>

寄せられた御意見の内容	御意見に対する町の考え方
<p>「募集案件の趣旨」にも記載がある通り、現在は「ビジネス客」が主要な客層であるように、今の自然の家の形態では、こうした“生物多様性のホットスポット”としての黒松内や「黒松内町みらいのかたち 生物多様性地域戦略」のパンフレットに掲げられているような“生物多様性土地利用構想”を体感したいと思って来られる方々の要望とはマッチしきれていないのではといった話も、これまで私の周りではされてきました。</p> <p>今回の自然の家の話を良い機会として、この黒松内の資源を存分に味わってもらえるような新たな形の宿泊施設をつくることができれば、今の町の方向性にもマッチし、新たな客層も呼び込むことができるのではと、勝手ながら希望もっています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・可能な限り町内の食材を使った食事？</li> <li>・全体の客室数を減らす？</li> <li>・大浴槽は廃止し、温泉利用/個室にシャワー？</li> <li>・トレーラーハウスを数基配置し、貸切利用？</li> <li>・跡地をル・ピックの飛び地に？</li> </ul> <p>…など、あの自然を感じられる立地を活かす方法が他にないのか、もう一度ご検討いただくことは、不可能なのでしょうか。</p> <p>既に様々な選択肢を視野にいれられて、検討に検討を重ねてこられた末の今回の事業案であるということは想像に容易くはありますが、公社の運営する“自然の家”でなくとも、何かの形で、それも町が主導で生物多様性・自然との共生を感じることができる宿泊施設をすすめていくことが、将来的には唯一無二のものになるのではと可能性だけは大いに感じている一般町民として、書かせていただきました。町に頼りっきりになるのではなく、民間としてもできることは最大限にしていく所存ではあります。取り留めの無い長文で恐縮ではありますが、今後とも、よろしくお願いいたします。</p>	

## ○人員配置



※自然の家の現体制 社員 8名、パート 8名 計 16名

余剰人員は、温泉・道の駅などに異動

## ○営業時間

- (1) 9時～11時 開店 ⇒ カラオケ喫茶営業 (ドリンク対応、食事提供は11時から) **※平日のみ**
- (2) 11時～15時 ランチ・喫茶営業 (ランチ14:00ラストオーダー)
- ★ 15時～17時 休憩時間 (お客さん退室)
- (3) 17時～21時 デイナー営業 ⇒ 閉店

## 勤務スケジュール

(定休日：平日一日、マネージャーはホール勤務兼務)

	月	火	水	木	金	土	日
厨房	2	2	2	定休日	3	3	3
料理長	○	休	○		○	○	○
副料理長	○	○	休		○	○	○
スタッフ	休	○	○		○	○	○
ホール	3	3	2		2	2	3
マネージャー	○	○	○		休	○	○
スタッフ (職員)	○	○	休		○	○	○
スタッフ (パート)	○	○	○		○	休	○
施設管理	1	1	2		2	2	2
清掃A	休	○	○		○	○	○
清掃B	○	休	○	○	○	○	
出勤人数計	6	6	6	7	7	8	

## ○収支計画

### (1) 売上見込み

	客数予測 (人) A	客単価 (円) B	営業日数 (日) C	売上見込 (月・円) D=A×B×C
ランチ				
店内	30	950	26	741,000
喫茶利用	10	500	26	130,000
テイクアウト弁当	15	800	26	312,000
特産品物販	—	2,000	26	52,000
ディナー				
飲酒あり	20	4,000	26	2,080,000
食事のみ	10	1,200	26	312,000
合計	85			3,627,000

※トワ・ヴェール製品など

一日平均 85人  
客単価 1,559円/人

### (2) 粗利予測

	客数予測 (人) A	客単価 (円) B	利益率 (%) E	粗利 (円) F=B×E	営業日数 (日) C	粗利見込 (月・円) G=A×F×C
ランチ						
店内	30	950	60.0%	570	26	444,600
喫茶利用	10	500	60.0%	300	26	78,000
テイクアウト弁当	15	800	60.0%	480	26	187,200
特産品物販	—	2,000	35.0%	700	26	18,200
ディナー						
飲酒あり	20	4,000	70.0%	2,800	26	1,456,000
食事のみ	10	1,200	60.0%	720	26	187,200
合計	85					2,371,200

経費(J=D-G) 34.6% 1,255,800円

※売上に占める経費(食材費など)の割合

### (3) 販売管理費予測

人件費	1,722,000円
光熱水費	294,000円
その他	280,000円
合計(H)	2,296,000円

販管率(H/D) 63.3%

※売上に占める販売管理費の割合

#### ■現キリカの来客数・売上等(R5実績)

- ①宿泊+宴会+レストラン 来客数 38人/日  
売上 29,229,634円  
客単価 2,114円
- ②宴会+レストラン 来客数 27人/日  
売上 23,740,534円  
客単価 2,417円
- ③レストランのみ 来客数 20人/日  
売上 9,300,631円  
客単価 1,257円

### (4) 営業利益予測

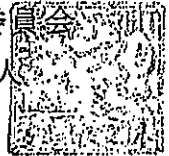
月次営業利益(I=D-J-H)	75千円
年次営業利益(I*12)	902千円



黒まち推委号  
令和5年3月13日

黒松内町長 鎌田 満 様

黒松内町まちづくり推進委員会  
委員長 池田 重人



今後の交流施設の在り方（案）の答申について

本委員会に諮問された「今後の交流施設の在り方（案）」について、慎重審議の結果、本委員会はその内容を適当と認め、別記附帯意見を附して答申します。



## 別記

### 附 帯 意 見

第4次黒松内町総合計画策定時に、「ブナ北限の里づくり構想」は本町のまちづくりの理念である、とあらためて確認されました。そのブナ北限の里づくり構想の目的である「まちの活性化」のための手だてとして整備された交流施設も、早いもので開業してから30年余りが経過したものもあります。

インバウンド需要の急伸やコロナ禍での団体旅行から少人数旅行へのシフト、また、アドベンチャートラベルといった環境負荷低減を意識した旅行ニーズの増加など、観光の質や内容が大きく変化している中で、今後の本町における交流施設の在り方について、再検討すべき時を迎えました。

本委員会としては、「今後の交流施設の在り方(案)」を進めるに当たり、次の事項に留意し、その効果的な推進に努めることを望みます。

#### (1) 全体

各施設の再編に当たっては、より多くの利用者が見込めるようにコンセプトを明確にすること。また、施設を整備・改修する際には、設計段階から町だけでなく指定管理者や施設の維持・管理・運営に携わる事業者などの関係者が関わり、デザイン重視に偏重せず、機能性を確保すること。

各交流施設が抱える「人手不足」や「慢性的な赤字経営」といった課題を解決するため、現在町直営の施設に指定管理者制度を導入することについては了承する。ただし、指定管理者の選定の際には、下記の項目に十分配慮すること。

- ①指定管理者制度を導入することで現在の就業者の就業先が変わっても労働条件が悪化しないように努めること
- ②各施設で提供するサービスの質の低下に繋がらないようにすること
- ③町内の商工事業者との取引を継続すること
- ④黒松内町のまちづくりに賛同し、協力すること
- ⑤町民に各施設の経営状況や利用者数等を定期的に周知すること

2030年度末の北海道新幹線札幌延伸に伴うJR函館本線(長万部小樽間)の廃線により不要となる駅や線路敷地を活用して、どういったまちづくりを展開していくのかも検討を始めるべきだが、まずは、交流施設の再編に当たり、限られた財源・人員の中で実施される他の大型事業とも整合性をとりながら、優先順位をつけて事業を実施すること。

また、そこで働く従業員のための住環境整備についても並行して進めること。



## (2) 歌才自然の家

歌才自然の家の大きな魅力の一つは、レストランや部屋から眺める特別な景色である。ブナ北限の里づくり構想をまちづくりの理念として継承していくためには、ブナの森が自分たちの宝物だということを町民も、そこで働く私達も忘れないようにしなければならない。

飲食機能の市街地への移転については了承するが、宿泊機能のうちビジネス客は市街地旅館に誘導、残された観光客利用は黒松内温泉に隣接する敷地に少人数個人客向けの施設を整備、ある程度の大人数が宿泊できる施設は新たな民間企業を誘致し、現歌才自然の家敷地内での整備も含め検討すること。

また、宿泊施設の利用者増に向けて、運動公園等の活用策についても検討を進めること。

## (3) 道の駅くろまつない

白井川地区で飲食店等の新規開業が続き、賑わいを見せてきている中での新たな展開として、道の駅への企業誘致は了承する。

ただし、例えばパークゴルフ場は、道の駅開設当時とは利用者の状況が変わっているため、敷地を有効活用して、今の来場者数に見合った駐車場の整備や、滞留時間を増加させる公園・ガーデンなどの整備についても、併せて検討すること。

他にも、まちの玄関口としてのインフォメーション機能を充実して、まちのPR強化を図るほか、地元農産物の一層の活用など地元経済への波及効果も十分考慮すること。

## (4) オートキャンプ場ル・ピック（ブナセンター）

ル・ピックのサービスの質の向上のために、指定管理者制度の導入などで運営方法が変わることは了承するので、町直営ではできない新しいサービスへの柔軟な対応、物販の拡充などに積極的に取り組み、来場者の増加・売上向上に繋げる。また、道の駅と同じくインフォメーション機能を充実して、まちのPR強化を図ること。

ブナセンターは、まちのシンボルであるブナに関する資料の保存・展示などの施設としての機能は必要だが、ブナセンターとル・ピックの施設の一体管理による利便性向上に取り組むこと。